

今号でまぐまぐメールマガジン読者数1500人突破しました！！！！
凄い数字です。登録していただいた方皆様に感謝でございます。

どうやらメルマガを書こうとするときに登録者数を確認するのですが
いつもきりの良い数字でたいへん縁起が良くメルマガを出す甲斐があり、
嬉しく思います。読者のみなさまありがとうございます。

(こちらのメールマガジンは転送可でございます。御友人や
御知り合いでタイに関心ある方にはどんどんお伝え下さいませ。)

□□ No 1 タイ株初心者編です ■■

そろそろタイの証券口座開設のお話をしようと思っております。
現時点で日本人が口座開設をもっともしやすいのはユナイテッド証券ではないでしょうか。
日本人スタッフの常駐、問い合わせ対応の早さでは
No 1でしょう。

<http://www.unitedsec.com/jp/>

ネックとして

原則タイで訪問して口座開設しなければならない。

手数料がSEAMICO証券より高めの設定。

でしょうか。

次にお薦めするのはSEAMICO証券ですね。

こちらはわたくしが口座開設した後から日本人スタッフさんが
入られました。

ただし長期休暇を取られていたようで、その間サポートはなかったようです。

http://www.seamico.com/eng/ProductServices/download_jap_language.asp

こちらのネックとしては

日本人がいてもサービスは受けられるかは保証できないこと。

完全な日本語取引ではないこと。

英語のみでの取引ですと

その他に

K I M E N G 証券 <http://www.kimeng.co.th/>

P H A T R A 証券 <http://www.phatrasecurities.com/en/>

が挙げられます。

こちらでは完全に英語となりますので少々敷居が高いのです。

いずれの4社ともにタイSET市場に上場している証券会社です。

日本の証券会社でもいくつかタイ株取引を開始しましたが

一番の大きな違いはその手数料の安さです。

仮に100万円を投資したとしてシュミレーションしてみると
いくらか証券会社の手数料になるのかを計算してみると
驚いてしまうかもしれません。

同じタイ企業に投資しているのに
日本の証券会社を通じて投資しているAさん
タイの証券会社でオンライントレードしているBさん
では数年後大きな差が出てきます。

口座開設に関しましては次回にもう少し詳しく書いていきます。

管理人のコメント：

タイ株人気はずかながら出てきて
いろいろな所で取り上げられるのは良いのですが、
事前に調べないまま多額を投資してしまうのはやはりお薦めできません。
いろいろなサイトで良く調べてから決定されることをお薦めします。

一方で海外の投資信託なのですが日経新聞の5月9日の記事で
TOPの記事が「投信手数料が高止まり」と書かれていました。
投資信託には 1：販売手数料、2：信託報酬、3：信託財産留保額
などの経費がかかります。
そして 07年の3月の信託報酬平均値は契約資産の1.308%だそうです。
手数料が割り高な海外新興国株式投資信託などの商品が増えて4年連続で上昇しているそうです。
すべての手数料を合わせると3%を軽く越えてしまう商品も多いそうです。

この最初の販売手数料がかからないノーロード型と言うのもあるのですが、
BRICsを始めとする話題の国々の投信は手数料が高いです。
これはたかが数%の差と言ってもあなどれません。非常に重要です。
購入前に必ずシュミレーションしないと痛い目にあいます。

基本的に日本での購入は割高（商品によってはとても割高）になります。
海外で申し込みして購入するのと日本の証券会社を通じての申し込みでは
数年後かなりの差が出てきます。

（計算式を出して こんなに違います！と書いてもいいのですが、
金融商品によっても違いますし、実際計算するとびっくりされるので控えます。）

その前の8日の記事で日本株投信「海外株投信」を下回るとありました。
日本株を対象にした投資信託の資産残高は10兆円を下回り海外株投信を初めて下回ったそうです。

新興国株式、海外の高配当を対象にした投資信託の人気が高まり
日本株投信からの乗換えが加速しています。
たしかにこちらに書いてあったグラフを見ると

一目瞭然、日本株投信は横ばいで海外株投信は右肩上がりとなっています。

人気が出てくるのは良いことですが、リスクを考えた上での行動、きちんと調べた上で行動するのはリスクを下げていくことになります。

資産運用で多いのは「よく知らない」ことによって損害が出てくるので・・・。

□□ No2 タイ株上級者編です ■■
過去のタイ株関連メルマガであまり触れられてなかったコーナーを作りました。

●● 014 BANPU です。○○
タイの大手石炭採掘事業大手です。

タイでは石油はあまり取れないので海外展開しています。
PTTEPなどが中東で活躍しています。さてバンパー社(BANPU)は
タイ国内で石炭採掘最大手です。

06年末時点で石炭採掘量では世界で7位、
アジア内で4位につけている企業です。
石炭に関する採掘、生産、精製までをトータルで行っています。
タイ国内事業では主にランブーン、パラオ、の北部を中心に生産をしています。
(しかし将来的に事業を縮小へ)
海外事業分野ではインドネシアや中国の炭鉱を買収していて、
子会社関連会社化することで生産を拡大、
成長している企業です。
最近では電力・発電事業関係においてEGAT(タイ国営発電公社)
とタイ発電事業会社RATCHと緊密関係で、発電事業にも進出しています。

タイ国内石炭採掘事業大手のバンパー(BANPU)の2006年の
決算では売上で354億9600万バーツで05年比23.0%の増加、純利益では
36億1000万バーツで05年比マイナス35.1%の減少でした。
売上ではインドネシアトゥルパインド炭鉱(カリマンタン島東部)での高品質石炭生産増、
タイ・中国での稼働を開始した発電所での売上が良い方向へ影響したものの、
06年度の世界的原油高の影響で、石炭生産・輸送コストが大幅に増加しました。

□□ No3 タイ国内ニュース編です ■■

タイ国内では05年と06年に大幅に上昇した中央銀行の政策金利を
2007年度に入りすでに4回利下げしました。
07年の1月17日に4.75%へ切り下げしてから
この5月25日に3.50%まで下がりました。

この金利の引き下げでは影響が大きいのは高い買い物をするとところだと考えます。
わずか数%でも高い商品にとっては非常に恩恵を受けやすいためです。
不動産開発セクター、自動車セクターなどはこれからだと思われれます。

日本の企業のタイへの進出拡大のニュースもいろいろありました。
三井化学、ダイキン、横浜ゴムの3社はタイでの事業計画や
生産を拡張・拡大しています。

三井化学では、タイ・サイアムセメントグループ（SCC）のSCGケミカル社
傘下のタイポリプロピレン社とポリプロピレン製造技術ライセンス契約を
2007年1月に締結致しています。

ダイキンでは業務用のエアコンを生産能力台数を3万台から年内に8万台へ
引き上げるとのことです。
こちらの巨大な工場はアマタナコン工業団地（AMATA）にあります。

横浜ゴムではタイでの乗用車用タイヤの生産能力を増強します。現在、
ヨコハマタイヤ・マニュファクチャリング・タイで操業中の第二工場を、
第二期工事によって拡張して、
2009年度に生産能力をおよそ280万本に生産拡大します。
横浜ゴムでは、将来的にヨコハマタイヤ・マニュファクチャリング・タイ
を海外最大の総合タイヤ生産拠点にする考えだそうです。

前回でも少しお話しましたが
タイではインドシナ半島を縦断、横断する経済回廊が誕生しつつあり、
中国との関係、ベトナムとの関係もより密接になって行きそうです。
陸上輸送網の構築にはオランダ運輸大手のTNT、日本では日本通運が
2008年度にもトラック輸送を開始するそうです。

しかしこのルートが完成すれば非常にモノの移動が早くなるために
バンコクーハノイでいままでも海上輸送10日かかっていたものが
陸上に切り替わることで最速3日で輸送可能になるそうです。壮大な計画です。

□□ No 4 追伸です ■■

今回も長々と書いてしまいました。

さて再び数字が更新されましたので、これを最後までお読み頂いた方限定で
『タイ株のこれがわかりません！教えてください！』キャンペーンを行います。
最近また増えてきましたので返信が遅れる可能性も御了承ください。

タイ株をまだ始めていない方でも タイ株を既に開始して取引している方でも
どんな方でも構いません。メールを頂いた方には必ず御返事致します。
(ただし。。。あんまりマニアック過ぎる質問は.....)

